

## 第 46 回黒部市教育振興協議会（会議概要）

1 日 時 令和 2 年 8 月 27 日（木）午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分

2 場 所 黒部市役所 201・202 会議室

3 委員・市教委事務局

委 員	選出団体	事務局	職 名
谷島 傅俊	黒部市自治振興会連絡協議会	鍋谷 悟	教育部長
米屋 祐治	黒部商工会議所	高野 晋	次長・学校教育課長・学校給食センター所長
山田美穂子	黒部市農業協同組合	林 茂行	次長・生涯学習課長・ジオパーク推進班長
神子満美子	黒部市社会教育委員会	橋本 正則	スポーツ課長・フルマラソン推進班長
白川 正秋	黒部市体育協会	能登 昌幸	図書館長
本島 直美	黒部市 P T A 連絡協議会	島田 恭宏	次長・こども支援課長（幼稚園教育担当）
木下 陽子	公募委員	齊藤 誠	学校教育班長
茶谷 渉	黒部市小学校長会長	中湊 栄治	交流センター整備班長
中村 靖	黒部市中学校長会長	舘野 敬子	学校教育課主幹
		幸林 理恵	生涯学習課主幹
		松平真由美	学校給食センター主幹
		前林 丈雄	学校教育課庶務係長

### 4 会議次第

(1) 開 会

(2) 挨拶（教育部長）

(3) 審 議 令和 2 年度教育委員会事務の点検・評価について

(4) その他 事務連絡：次回開催日程について

(5) 閉 会

### 5 会議概要（点検・評価の審査における委員からの主な意見及び訂正事項）

『人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育』について

① 家庭教育（資料 13 ページから 14 ページ）

（1）親子での体験事業

（2）成人式の開催

1 地域教育（資料 15 ページ）

（1）放課後子ども教室推進事業

（質問）①（1）『親子での体験事業』並びに②（1）『放課後子ども教室推進事業』の両方に通じて、受講者数の記載があるがこれは延べ人数だと思われる。実際より多くの方に体験していただきたいという趣旨があると思うが、受講者が限られているように思われる。例えば親子での体験事業に関して、世帯数などは把握しているのか？

（回答）『親子での体験事業』に関しては各公民館における実施開催日における参加人数のみとなり、『放課後子ども教室推進事業』に関しては開催された事業に対する業者数、児童数に対する指導者数のみとなり、世帯数等は把握していない。

(質問) 数字を追うのが正しいかはわからないが、今後、一人でも多くの方に体験をしてもらうというところで、出てこれない方をどのようにして出てもらうかを課題として取り組んでいけばどうか。

(回答) 参加者を増やすということは一つの大事な課題だと思っている。それにより世帯数などの把握ができるかは未定だが、参加者を増やす工夫等を行っていきたいと思う。

(質問) ① (1) 『親子での体験事業』の実績・成果の箇所に関して「インターンシップを活用した郷土愛醸成や、郷土芸能の継承」と記載があるが、具体的なものを記載した方がわかりやすいのではないか。また点検・評価の箇所に関して、「地域でスキルを持つ方を主役に」と記載があるが、「主役」という部分が気になった。意図が分かりづらく感じるのもう少しわかりやすい表現にしてはどうか。

(回答) 検討し変更していこうと思う。

『心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育』について

① 幼稚園・学校等の円滑な運営 (資料 16 ページから 21 ページ)

- (1) 学校評価の取り組み
- (2) 幼・保・小・中学校の連携
- (3) 適応指導教室 (ほっとスペース「あゆみ」) 事業
- (4) 奨学金貸付・給付事業
- (5) 就学援助事業
- (6) 幼稚園教育の充実

(質問) 20 ページ (5) 『就学援助事業』の実績・成果の箇所について、上記の表の令和元年度対象者人数は 153 人ではないか。

(回答) 153 人であるので訂正する。

(質問) 18 ページの不登校児童について、令和元年度に適応指導教室 (以下、ほっとスペース) への通所者数が 7 名との記載があるが、令和元年度の不登校児童は実際何名くらいになるのか。

(回答) 資料 31 ページに『(2) いじめ不登校対策』という項目があり、そちらの実績・成果の欄にある表に「長期欠席者数」として記載をしている。「不登校」という括りは 30 日を超えて欠席をするというところでカウントをしており、なかなか学校に行けないものと、病気等によるものを含めてはいるが、記載している数字のとおりとなる。

(質問) 様々な事情があるとは思いますが、ほっとスペースに通所していない児童が、通所することによりまた登校できるようということ課題に記載してはどうか。

(回答) それぞれに様々な特性、様々な背景等があると思うので、ほっとスペースへの通所以外にもいくつかの選択肢を示してはいるが、よい施設であるということを知り、活用していけるようにすすめていきたいと思う。

(質問) 19 ページ (4) 『奨学金貸付・給付事業』の今後の方向の欄について、「就学困

難とされる」の記載があるが「修学」もしくは「進学」が正しいのではないか。  
(回答) 訂正、対応をしていく。

② 確かな学力 (資料 22 ページから 24 ページ)

- (1) 全国学力・学習状況調査
- (2) 教職員研修・研究委員会・研究指定校
- (3) 学校訪問

質問等：なし

③ 国際化教育 (資料 25 ページから 28 ページ)

- (1) 英会話科の実施
- (2) 英語サマーキャンプ
- (3) 姉妹都市交流研修事業
- (4) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育

(質問) 27 ページ (3) 『姉妹都市交流研修事業』の趣旨等の欄に関して、「コミュニケーション」の「ニ」が漢字になっているのでカタカナに訂正すべきではないか。

(回答) 訂正をしていく。

(意見) 質問、提案及び回答を求めるものではないが、27 ページ (3) 『姉妹都市交流事業』に関して、オランダのフリーランス市との交流がもう 10 年以上実施されていない。あくまでも示し方の問題として、2 自治体のうち 1 自治体としか交流ができていないとすると点検・評価は 50% で C となるのではないか。A で問題はないと思うが、今年度において開催できていないものが多くあり、来年度に記載をする際にどのように記載をしていくのか。できていないから D というようになるのか。この部分をあくまでも示し方の問題として考えていく必要があるのではないかと思う。

④ 特別支援教育 (資料 29 ページ)

- (1) 特別支援教育支援員 (スタディ・メイト) 事業

⑤ 心の教育 (資料 30 ページから 31 ページ)

- (1) 豊かな体験活動推進事業
- (2) いじめ不登校対策

(質問) 29 ページ (1) 『特別支援教育支援事業』の点検・評価の欄に「市主催の研修は未開催」と記載があるが、平成 30 年度も未開催であり 2 年連続で未開催となっているが、なぜなのか。評価の課題となるのであればなぜ未開催なのか。

(回答) 今年度は 6 月に開催をした。年度当初に開催ができればという思いはあるが、なかなか日が取れず、年度末にゆとりがなかったということが正直なところである。研修を行うことでスキルアップしていくことが大切であることは承知している。こちらの不手際であり、改善は必ず図っていくようにする。

(質問) 29 ページ (1) 『特別支援教育支援事業』の趣旨等の欄に関して、「LD (学習

障害)」の「害」が漢字で記載されているが、ひらがなでの記載が正しいのではないのか。

(回答) 文部科学省にて使用されているものと同じになるよう、調べて訂正する。

(質問) 31 ページ (2) 『いじめ不登校対策』の実績・成果の欄に関して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーがどれくらいいるのか分かりにくいので、人数の記載をしたらどうか。また同箇所において、いじめ不登校の原因は児童虐待やネグレクト、貧困問題等様々あると思うが、現在の記載では友達同士の間人間関係が主となっており、そのほかの問題が見えてこないのか、可能であればこの欄に記載をしていけばどうか。

(回答) まず人数に関しては令和元年度の人数を記載するように検討をしていく。児童虐待等の問題の記載についてはこども支援課がメインとなり担当しているのか、そこを整理し、共に位置付けて問題に取り組んでいることを示すとともに記載していくことを検討していく。

⑥ 読書・情報教育 (資料 32 ページから 33 ページ)

(1) 学校司書配置事業

(2) 情報教育

⑦ キャリア教育 (資料 34 ページ)

(1) 14 歳の挑戦事業

質問等：なし

⑧ 健康・体力 (資料 35 ページから 38 ページ)

(1) 食育の取り組み

(2) 体力の向上・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

(3) スポーツエキスパート派遣事業

(4) 給食センターの衛生管理、調理・洗浄業務、給食配送業務

(質問) 35 ページ (1) 『食育の取り組み』の実績・評価の欄に関して、下の表の「朝食摂取状況」の令和元年度の小学校の数値が 91.0%となっている。昨年度と比べて大きく数値が下降しており、2 学年から 6 学年に変化がないとするとこの数値は間違いではないのか。

(回答) 確認して、次回改めて報告する。

(質問) 35 ページ (1) 『食育の取り組み』の課題・改善の欄に関して、「状況について全体的に低下した」との記載があるが、中学校は低下していないと思うので、全体的ではないのではないのか。また同ページの点検・評価に関して、昨年は A 評価で今年度は B 評価となっているが、理由として「巡回の実施日を計画する時期が遅かったため、実施日の回数が減った」との記載があるが、実際は小学校の朝食摂取状況の低下が理由になるのか。

(回答) まず評価理由としてはそのとおりとなるが、改めて数値の調査を行うため、そちらを確認してまた次回改めて報告をする。課題・改善の欄に関しては小学校と中学

校を分けて記載するように訂正する。

(質問) 36 ページ (2) 『体力の向上・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」』の実績・成果の欄に関して、文章で記載をするよりも表などにまとめて記載をした方が分かりやすいのではないか。

(回答)：そのとおりであるので訂正する。

(質問) 35 ページ (1) 『食育の取り組み』の点検・評価に関して、小学校の朝食摂取状況の正確な数値が判明すると総合評価はAとなるのか。

(回答)：教育実施が大切な取り組みとなるのでBのままとさせていただく。

⑨ 安全 (資料 39 ページから 41 ページ)

(1) 安全管理

(2) 遠距離通学対策 (スクールバス運行事業・通学定期券補助金)

(3) A E D 管理事業

質問等：なし

⑩ 教育環境の整備 (資料 42 ページから 44 ページ)

(1) 学校施設の大規模改修・耐震補強工事

(2) 桜井中学校新築事業

(3) 黒部市立小中学校再編計画の推進

質問等：なし